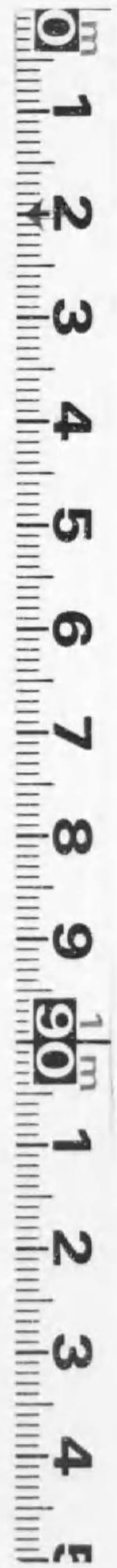




特



始



特114
194



博 運 山 人 著
當 よ く
る 米 株 相 場 先 見 秘 法



丸 木 屋 藏 版

大 正
11. 5. 2
内 交

武蔵野

新編山人

はしがき

物質的に於ける生存場裡の慾望は、何時も未來に囑望されてゐる。古來裸一貫より身を起して、一代に巨萬の富を贏ち得たる人士の心理状態は期せずして未來に投ずる先見の明に外ならぬ。

然るに先見を究めずして機に投せんとするは、無謀も甚しいとせねばならぬ、是偏に肉體の英氣を養ふと共に先見力を養成して、勝たんとする先に備へなくてはならぬ。

本書は私が名利の巷より漸くに超脱し得て章したるもので、多年の經驗に依る卑見の發表であるが、元より文章を賣るに非ずして、實地的立場よ

り先見の急所を整理解剖し、直裁簡明に要訣を述べ、以て新進氣鋭の諸士に御一顧を乞はんと致した次第である。

著者識す

よく
當る 米相場先見秘法

目次

緒言	(一)
第一章 相場騰落の原理	(三)
第二章 先見法の歸着点	(五)
第三章 罫線に基ける先見法	(一〇)
第四章 米株罫線法の秘訣	(一一)
日足に就て	(一一)
強弱暗示法	(一二)
發會方針「一」	(一三)

其二	(二三)
其三	(二四)
其四	(一四)
其五	(一五)
其六	(一六)
其七	(一六)
其八	(一八)
轉換法(ドナン法)「一」	(一九)
其(急調的の場合)「二」	(二〇)
其(漸進漸落の場合)「三」	(二一)
其 四の甲	(二二)
其 四の乙	(二三)
其五	(二四)

其六	(二四)
其七	(二五)
其 八(保合の場合)	(二六)
顔合轉換法	(二六)
漸進轉換法	(二七)
押戻先見法「一」	(二七)
其二	(二八)
其三	(二九)
押戻逆行法	(二九)
連續保合押戻先見法	(三〇)
不伸法「一」	(三一)
其二	(三二)
押戻不伸法	(三二)

連續保合不伸法	……………	(三三)
保合法甲	……………	(三三)
其 乙	……………	(三四)
其 丙	……………	(三五)
二種保合法(小巾)	……………	(三六)
連續保合急變法	……………	(三六)
特種保合法「一」	……………	(三七)
其 二	……………	(三七)
其 三	……………	(三八)
其 四	……………	(三八)
其 五	……………	(三九)
特種急轉法「一」	……………	(三九)
其 二	……………	(四〇)

特種連續保合法	……………	(四〇)
小押急轉法	……………	(四一)
小戻急轉法	……………	(四二)
特種押戻先見法「一」	……………	(四二)
其 二	……………	(四三)
其 三	……………	(四四)
其 四	……………	(四四)
漸進特種押戻先見法	……………	(四五)
目始め先見法	……………	(四六)
第六章 大勢先見法秘訣	……………	(四七)
第七章 天井先見法	……………	(四九)
第八章 底値の先見法	……………	(五〇)

第九章	様變り相場	(五二)
第十章	中止及解合後の秘訣	(五四)
第十一章	跡覺の相場	(五五)
第十二章	保合相場	(五六)
	天井持合	(五八)
	底値持合	(五八)
	中央停滯保合	(五九)
	持合分岐の狀況	(五九)
第十三章	鞘に依る先見法	(六〇)
第十四章	人氣	(六一)
第十五章	仕手の分解先見法	(六三)

第十六章	材料	(六八)
第十七章	米相場の騰落材料	(七二)
第十八章	材料相場の七ヶ條の心得	(七九)
第十九章	材料より見たる十二ヶ月	(八〇)
第廿章	株式相場材料の分解先見	(八二)
第廿一章	經濟界循環一覽表	(八四)
第廿二章	株式相場騰貴の原因となる材料	(八六)
	特殊材料	(八六)
	一般材料	(八八)
第廿三章	同下落の原因となる材料	(九二)
	一般材料	(九二)

第廿四章 材料各種先見法	(九五)
騰貴の前兆	(九五)
下落の前兆	(九六)
恐慌の前兆	(九七)
第廿五章 修養録	(九八)
修養十項	(九九)
實戰標語十句	(一〇一)
結論	(一〇四)
附 録 米株公定引上下暗示必勝法	(一〇七)

目次終り

よく
當る 米株相場先見秘法

博運山人著

緒言

吾等が生存競争の舞臺に立つて行くには、何物かを要求する處がなくはならぬ、其中で差當り必要なものは金である「地獄の沙汰も金次第」と言ふ諺の通り黄金萬能を叫ばざるを得ない社會である、全く世の中は金がなくは仕方がない、信用も名譽も地位も皆然りである、人間が社會に在つて意張りたひのに何んの不思議があるうぞ、世の中は實力本位だ。

吾等は茲に於て其威力ある金を如何にして得べきやが問題となる、此の時最も公明にして便利な富を致すの近道は相場である。

相場をすると言ふ事は商法で定めてある一種の商行爲であつて、經濟思想の民衆化せる今日、まだ之れを一六勝負の賭博的行爲に思考するは甚だ間違つた事である。

苟しくも男性的の仕事たる取引所は一國の經濟上の機關であつて、物價の統一標準を計り、吾人の生活上の幸福を増進せんとする、文化的の一步進歩した立派な商業の市場である。

凡て商業は將來に於て生すべき利益の爲めに現在の利益を賭する投機的事業なるが、相場は其投機的事業中最も至難とせられ、之れに依つて絶大

なる報酬に接せんと欲せば人より一步優れた研究と修養を要し、就中日夜想像以上頭を悩ますものは即ち前途豫測である。

黄金の榮達は先見力の養成に依つて機會の眞髓に投ずる處に最大の妙味ある事を信ずる。

第一章 相場騰落の原理

相場とは申す迄もなく商品市價の騰落であつて、凡て物價の變動は、需要供給の過不足により絶えず相場の位置を異にするものである、例へば米の豊作を見越して相場が下り、凶作なれば上る、其他株式でも綿糸でも其高下の呼吸理合は同一である、唯各々に依つて特殊の高下材料を異にする

のみである、即ち此の需給の權衡如何が相場變轉の主なる原因となるのである。

取引市場に於ける相場は此の理を一步も除外する事は出来ない、けれども定期の如きは期間を定めての賣買なるが故に先を見越しての豫約方法の下に賣買するのであるから、相場動搖の原因が人氣となり、其人氣が常に相場を作つて居る、故に需要供給の素因が人氣となり、人氣が賣と買とに區別されて此の二つの勢力が即ち相場動搖の原則となり、賣人の多い時は下がり、買人の多い時は上がると云ふ分り易いのが相場移動の原則である。されば此の理合呼吸を充分に研究して、前途を見越し、時勢に適應した取引をしなくてはならぬ。

(4)

第二章 先見法の歸着點

宇宙の原理は因なくして生ずるものでない、相場の高下は亦偶發的のものでない、彼の天體の運行の如く陰陽の兩極を絶えず循環し、自ら律する處ありて自然の理數の下に根源し發動するものである、然らば其原理とは何んであるかと言へば、單純なる賣買兩者の人氣勢力と言ひ得るのである。吾等は何よりも實驗上より之れを最も精密に研究し來たらば必ず一定の法に充て填め得るのである、然し法は死物である之れを運用するのが即ち冷靜なる頭である、故に運用する頭をよく養成したならば穴勝六ヶ敷いとする先見も、世間で想像する程六ヶ敷くないのである。

(5)

其判断たるや熱したる頭や、又は不徹底な實勢を離れた迷信的の様なものでは覺束ない、例へば株式の如きは經濟界の消長に密接の關係を有するものなれば、緊急な際には日銀の帖尻や鐵道の輸送の増減等にも注意せねばならぬ、イザ鎌倉と言ふ場合には儲けたくゞで宇頂天になつて居ると、彼の一度恐慌來に於ける際に倒れ死をしなくてはならぬ状態に陥る、之れを俄成金の没落と言ふのである。之れは餘事であるが、世には豫言師とか何々心靈會等と色々あつて、其指導を受ける場合が、手段としては其人の自由であるけれども、其中には迷信的なものや出鱈目放題な豫言を日課の如くにし、西には買へと言ひ、東には賣れと云ふどちらへ倒れても半分宛の客は大丈夫と言ふ遺口である、要するに高い料金を出して損をする位馬

鹿氣た事はない、自分の洞察力に依つて儲けるに越した事はないのである。相場の變轉は常に極りなく朝に高かるべしと思へば夕に安く、動かんとして保合ひ、波瀾曲折變化百出であるから、之れに對し臨機の處置を探ると共に、心に迷ひを生ずる様では既に失敗の原因である、處が實際になると口で言ふ通りには行かぬ、其處は修養を要する處であつて絶対に混亂を防がねばならぬ、此の故に先見法は客觀的に拘泥せず、機を穿つに敏なる方法として私は現在の素因を統一して判断をしなくてはならぬと申すのである、勿論素因の統一とは法則の事ではない。

素因は相場の先見に費すべき實勢の急所であらねばならぬ、而してそれに生じたもので放つたものが相場の未來的命に命中するのである。

然し或場合先見法は簡にして明なる事が肝心である、故に本書の最も重きを置く野線により眞理を極めればよいのである、何故なれば眞理と言ふものは必ず一つしかないからである、例へば今久しく底値で保合つて居た相場が上放れたら、其高くなる可き眞理が嚴然として含まれてゐるからである、故に最も見易き眞理を示す其物を活用すればそれで良いのである。處が前にも申す通り相場は機會を捉へる處に妙味ありと言ふ場合になると、米でも株でも目先を捉へるのでは充分目的を達成する事が出来ぬ、何うしたら其機會を大きく捉へ得るかと言ふと、相場の根源たる有力材料にありと言ふのである、殊に株式の如き現物を目的とする場合に於てはさうである、故に野線を活用する上に於て此の點を參考するの要ありと思ふ。

今假に株式に於いて野線丈にて賣買する場合の弊害を述べれば

野線中に人氣を形に現すも、其根據が過去のなるが爲め未來の實勢に遠ざかる事。

印象的より生ずる固守性、及相場の主旨たる大勢的を目先の偏し易き處に多少弊害ある事。

之れを米相場より見る時は株式の如く材料が複雑でなく、其根據を人氣的に立脚するが故に最も野線が都合よき事。

以上の事柄は總て先見の歸着點を明にせんとし、相場に對して迷はず確乎たる方針の下に實戦に勝利を得て頂きたい爲めの論及でしたが、文章の不徹底な處は幸ひ御諒解あらん事を乞ふ。

第二章 罫線に基ける先見法

罫線一名足取は日々の相場の高下變轉の工合がよく分り、一面から言へば無形の人気強弱勢力を明に表示する相場研究上唯一の參考資料である。今若し米でも株でも其相場の足取を二三ケ日引いて見れば自然に悟る處がある、天井を打つ時、底を定むる時、何れも其前兆として必ず罫線上一定の形狀を示すものである、故に罫線は過去の死物に非らずして、夫れに依つて或程度迄の未來を暗示し得る非常な大切なものである、従つて之れより研究する相場先見法及駆引は、此罫線上に根據を大半發して居るのである。

(10)

罫線の種類も色々あるが、其中で看破法として最も優秀なる日巾を分解整理し、實戦上何人も知らんと欲する處は勿論、尙罫線以外のものに依つて更に總てを補填し、何れも自信あり價值ある秘訣なれば、たとへ不可解な處があつてもよくく玩味せられ、各々一法則毎に何處かに含まるゝ人氣の趨向と、其眞理を會得され、相場の要義たる行はん先に勝つ成算を建て、實戦に處されん事を乞ふ。

(11)

第四章 米株罫線法の秘訣

日足に就て

一日中の高安直巾を棒狀に引き、(一)印を寄付、(×)印を大引と明示す

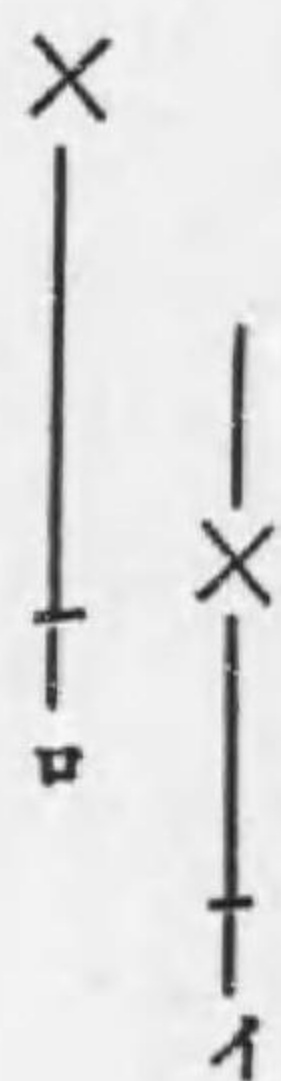
而して一線宛を順次罫線紙に描畫す。

日巾が寄付より上に大引するを陽引と言ひ、寄付より下に引けるを陰引と言ふ。

强弱暗示法

今日の日巾が(イ)日巾より(ロ)日巾が新値を現し、安値は新安値を出さざる時は前途強き暗示とす。

其反對に(イ)の前日高下直巾より(ロ)の今日直巾が新高値を現さず、却つて新安値を現すは目先弱勢を暗示す。



反對は略圖

發會方針

發會が米十五丁以内株一圓五十錢以内に保合ひ、二日目も同じ値巾に保合ひつゝ、何れか一方へ新値を切れば其方向に相場あるものとす。



上進は此の反對

其 一

發會が米十五以上二十丁以内、株一圓五十錢以上二圓以下の日巾(一日の高値安値の日巾)に出現し、其翌日及翌々日の日巾が各々十丁以内の平均で一方に新値を切れば其方向に従ふべし。



下落は此の反對

其 三

發會より連日保合となり、而して其保合範圍を米七丁以上、株七十錢以上（最後の日巾の高安値を標準として）上抜き、又は下抜きたる時は其抜きたる方向に従ふ。

其 四

發會日は米十三丁以内に保合ひ、二日目が発會日巾の高値以上に寄付けば買となり、安値以下に寄付けば賣となる。



上進は此の反對

其 五

發會日は寄付を下に上向き、二日目は寄付を上に向き（即ち下押し）たる時、其高値より四十二丁株四圓二十錢以内に三日目の日巾が寄付を下に上戻せば買となる、此反對は賣となる。

……四十二丁……



下落は此の反對

其 六

發會日巾に米三十五丁以下、株三圓五十錢以下の日巾を生じ、翌日發會日巾を三分したる上方部に寄付いて下押せば賣、下方部に寄付いて上戻せば買となる。



其 七

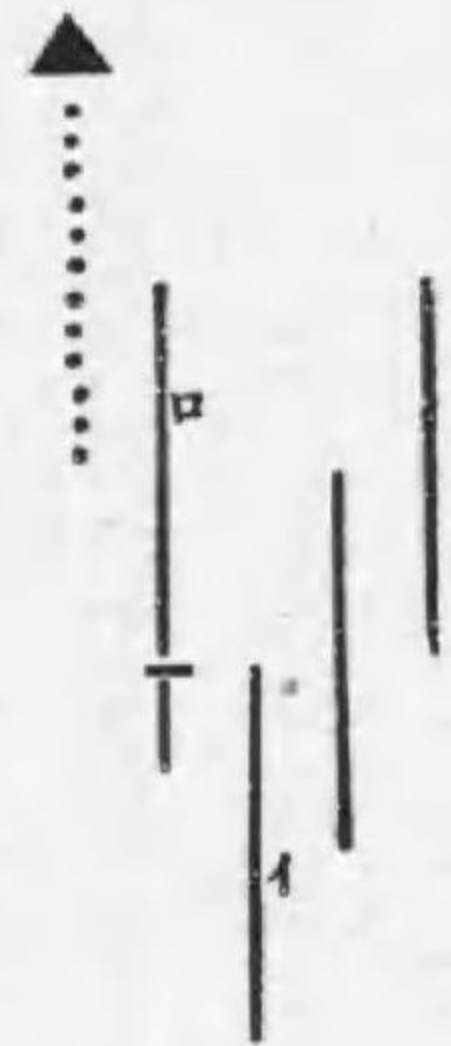
高納會を受けたる新甫が米二十丁以上、株二圓以上の箱に出で、更に米二十丁株二圓以上方上伸びるか、又は米拾五丁株一圓五十錢方逆に下押せば、各々其足につきて賣買すべし、左圖中(イ)は納會(ロ)は發會日巾なり



高納會は受けたる新甫が米二十丁以上、株二圓以上の下箱に生れ、此大勢方向に反して米三十丁、株三圓方下押すか、又は此大勢方向に従ひ米十五丁、株一圓五十錢方上伸びる時は、夫々其足の方向に付き賣買すべし、前圖と異つた處を調べ研究されたし、圖は略す。

安納會を受けたる新甫が米二十丁以上、株二圓以上の上箱に生れ、此大勢方向に逆行して米三圓方上戻すか、又は此大勢方向に従つて米十五丁、株一圓五十錢方下押せば其足につき賣買するものとす。(ハイ)は安納會(ロ)

は新甫上戻。



大勢に向ふ場合は略圖

安納會を受けたる新甫が米二十丁以上、株二圓以上の下鞆に生れ、更に米三十丁株三圓方下押すか、又は元の方向に逆行して米十五丁、株一圓五十錢方上戻せば、其足につき買賣すること。圖は略すに付前圖と違つた處を調べよ。

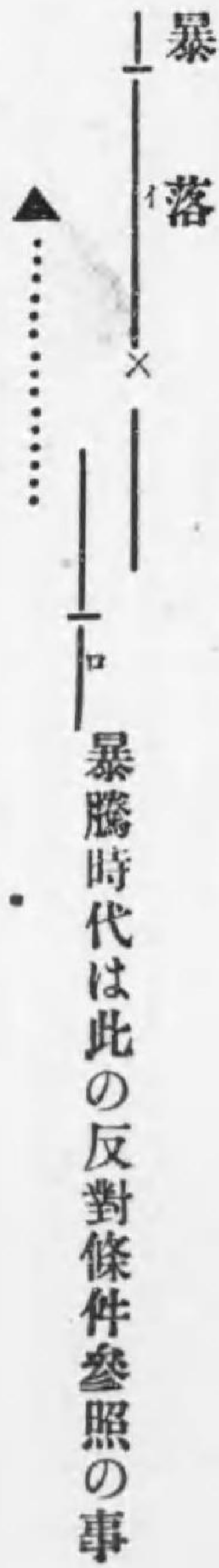
其 八

發會日が米二十丁以上、株二圓以上何れか(上下双方の意味)へ動き、翌

日更に米二十丁以上、株二圓以上前日と同じ方向に伸びし時は、其日巾の位置が、發會日巾の中央點以上に有れば賣となり、以下に有れば買となる

轉 換 法 (ドテン法) 一

左圖に於て、左記の如き條件の下にある日巾(二つの日巾)が、相場暴落時代に現るれば買となり、暴騰時代に現るれば賣となる。



條件一、 ρ 日巾は ι 日巾の三分の二以下なる事。

二、 ρ 日巾は上相場なれば ι 日巾の中心點以上に、下相場なれば中

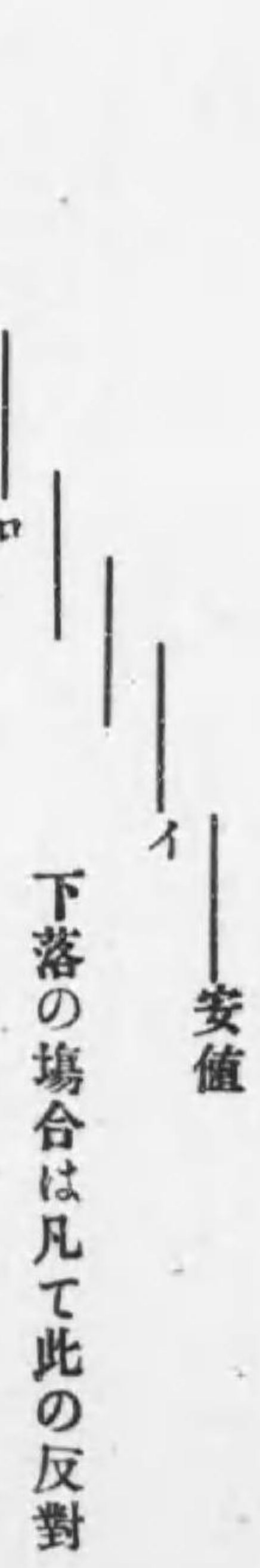
心點以下に位置を占める事。

三、ロ日巾の朝の寄付は、上相場ならば其中心點又はそれ以上にある事。

四、イ日巾の朝の寄付は、上相場ならば其中心點以下に、下相場ならば夫れ以上にある事。

轉換法 (急調的の場合) 二

相場が急調的に上走りつゝある時、左の如き押目日巾が、イ、ロ、ハと安値より數回出現したる時は、天井と見て賣るべし。又急調的に落下しつゝある時、其反對に戻り日巾が高値より數へて、三回出現したる時は底と見て買ふべし。



條件、イロハの日巾は相場上げの場合は寄付より下押し、下げ相場は場合は寄付より上戻し居る事。

轉換法 (漸進漸落の場合) 三

相場が漸進的歩調を以て下りつゝある時、押目日巾が第二法の如く三回出現し、四回又は五回、或は六七回目にて、二日續けて寄付より下押し

ば賣也。

轉換法四の甲

相場の上先又は下り先に轉換法第一を現はし、尙更らに其先きに、同性質の日巾を現はせば相場は一止りす。下圖の如し。



下り先は此の反對

條件一、ロもハも同様イの三分の二以下の日巾なる事。

二、ハ日巾はロ日巾と同値巾、同値巾乃至それ以下にある事。

三、上進の時はハ日巾の安値がロ日巾の安値より米三丁以上株三十錢以上上に位し、下落の時はハ日巾の高値が、ロ日巾の高値よ

り米三丁以上株三十錢以上下に位する事。

四の乙

右の如き足取りが相場の上り先に現れたる時には賣り、下り先に現れたる時は買なり。條件は甲圖參照

條件一、イ日巾は上相場に於ては其中央點以下に、下相場に於ては中央點以上にある事。

二、ロ日巾の寄付は、イ日巾の寄付の反對の側に在る事。

三、ハ日巾はイ日巾の三分の二以下にして、大勢上米三丁以上株三十錢以上の新値を出し且つ、朝の寄付は上相場に於ては中央點乃至それ以上に在る事。

轉換法 五

前項乙のハ日巾の値巾が上相場に於てロ日巾の高値を抜かされば賣り、下相場に於てロ日巾の安値を抜かされば買となるべし。

前項乙のハ日巾が上相場に於て、イ日巾の高値を抜かされば賣り、下相場に於てイ日巾の安値を抜かざれば買ふべし、圖は甲圖を参照すべし。

上下止りの轉換法豫知法 六

圖第四法の甲を参照、イ日巾の先にロ日巾を現せば轉換法一となり、其先きにハ日巾を現せば第四法の甲となり、更に其先きにハと同一性質の日巾を現せば相場は一止りす、又第四法甲の代りに第五法の先きに現すも同一の結果を生ず、又第四法の乙の先きに現すも同様なり。

轉換法 七

左の如き條件に於て左の如き足取を示したる時は尙高く、或は尙安を暗示す。



- 條件一、イ日巾は其前日の日巾と轉換法第一を形成する事もあり、又は單に押目日巾(上相場)戻し日巾(下げ相場の時)をなす事もあり
- 二、ロ日巾は上相場の場合はイ日巾を米二丁株二十錢方上抜き、下相場は同じく下抜く事。

三、イ日巾は陽引しても同一結果とす。

轉換法 (保合の場合) 八

第五法の後に保合を形成すれば、相場は之れ迄の大勢方向に従ふ。

顔合轉換法

相場下落の時何等か底となるべき方則を出し、其處を分岐として進み前の高値と顔合せの状態となつた時、其鼻に轉換法第一、又は第六を現せば相場上り先に於ては賣となり、下り先に於ては買となる。

上り先は此の反對

——顔合轉換買

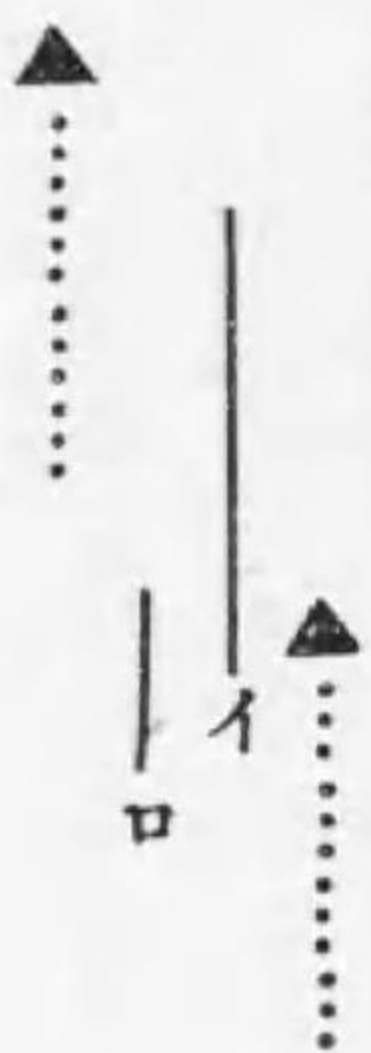
漸進轉換法

漸進歩調を以て上騰しつゝありし相場が、上伸方向に一方則を現出すると同時に急調を以て崩落し來り、其崩落先が漸進歩調を以て上げたるだけの値巾に達せざる所にて、轉換法第一又は第五を現せば尙賣なり、之れに反し漸落後の暴騰先に之れを現せば買なり。

押戻先見法一

左の如き條件の下にある足取りが相場上り先に出づれば尙高く、下り先に出づれば尙安きなり。

下落の場合は此の反對



條件一、ロ日巾はイ日巾の三分の二以下の値巾にある事。

二、ロ日巾出現の位置は大勢上進の時はイ日巾の中央點以下に、大勢下落の時は中央點以上にある事。(轉換法第一と反對)

三、イ日巾及ロ日巾の朝の寄付は何所にあるも差支なし。

其 一一

前項(一)の足取りを現したる翌日、(二)の日巾と同資格の日巾を大略同一に現はし、左の條件を備ふる時は、上伸の場合に於ては尙一段の上進を示し、下落に於ては尙安きを示すものなり。



下落は此の反對に付自ら線を引いて研究すべし

條件ハ日巾の朝の寄付は大勢上進の場合は其中央點より米十丁株一圓にても上に、下落の場合は下にあるべきこと。

其 三三

前項ハ日巾が上進相場に於ては大略重りたる形を以て下方部に、又下落相場に於ては上方部に出現する時は上進の場合は頭となり、下落相場に於ては底となる、其重りたる日巾の寄付は何所にあるも差支なし。

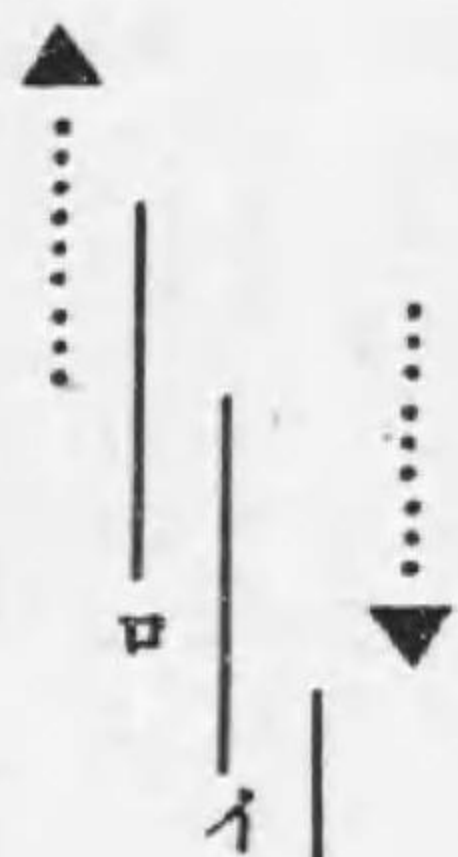
押戻逆行法

押戻先見法に當てはまらぬ場合に適用さるゝ法則を押戻逆行法とす。

本法は大勢上進の場合はロ日巾がイ日巾の中央點以上に寄付き、其附近より下押してイ日巾の安値を米五丁株五十錢方下抜きし處に於て逆行法な

る事を断定すべきものなり、而して此場合は賣となるべし。

下落の時には此反對に、ロ日巾がイ日巾の中央點以下に寄付き、其附近を安値として上戻し來り、イ日巾の高値を、米五丁株五十錢方上抜く處に於て本法を適用して買ふべし。左圖の如し。



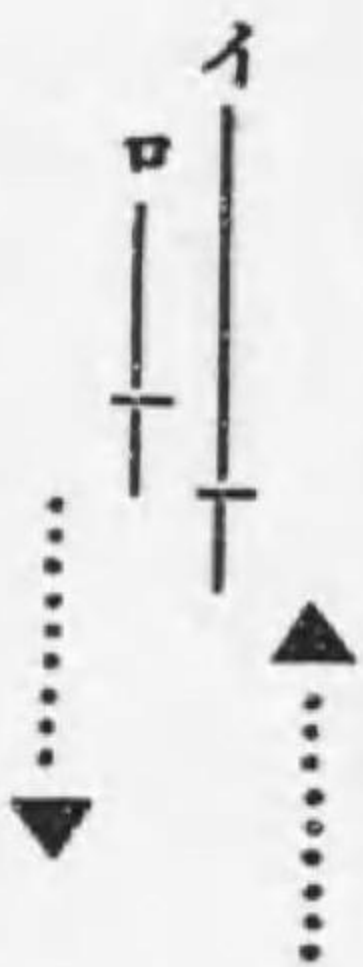
上進の場合は此の反對

連續保合押戻先見法

連續保合の範圍より其最後の日巾の三分の二以下の短日巾が飛び放れて現れたる時、上に出現すれば賣、下に出現すれば買なり。

不伸法一

不伸法とは一寸保合氣味の相場なり、左の如き條件に於て上進先にロ日巾の出現は賣下落先は買とす。



下落先は此の反對圖

條件一、ロ日巾はイ日巾の高安値を抜かず、全く値巾内に含まれあること。

二、ロ日巾及イ日巾の朝の寄付は、相場上げの場合は各其中央點より以下に、下相場は以上にあること。

其 二

不伸法一を現したる翌日の日巾が、ロ日巾の高値を上抜くも、イ日巾の高値を上抜かず、下落相場に於てはロ日巾の安値を下抜くも、イ日巾の安値を下抜かず、以上の如き相場足取りを示す時は、夫れ迄の相場上下の如何に拘らず、ロ日巾の翌日の朝の寄付より米十丁、株一圓方先きに伸びたる方向に従ふ、前項第一法参照の上作圖せらるべし。(注意)不伸法は多く漸進相場の場合に用ひ又現るゝものとす。

(32)

押戻不伸法

押戻先見法(一)を現したる翌日の日巾が上進相場に於てロ日巾の高値を抜き乍らイ日巾の高値を抜かず、下落の時にはロ日巾の安値を下抜くもイ

日巾の安値を抜かざる時は上り先に於ては賣となり、下り先に於ては買となる。第一法参照作圖せらるべし。

連続保合不伸法

相場の上り先に於て連続保合を現し、一寸下押し又戻したる後、略以前の保合せし位置に再び連続保合を現す場合此保合が、上伸相場の一端なれば尙高きを示し、下り先き保合なれば尙安きを暗示す。

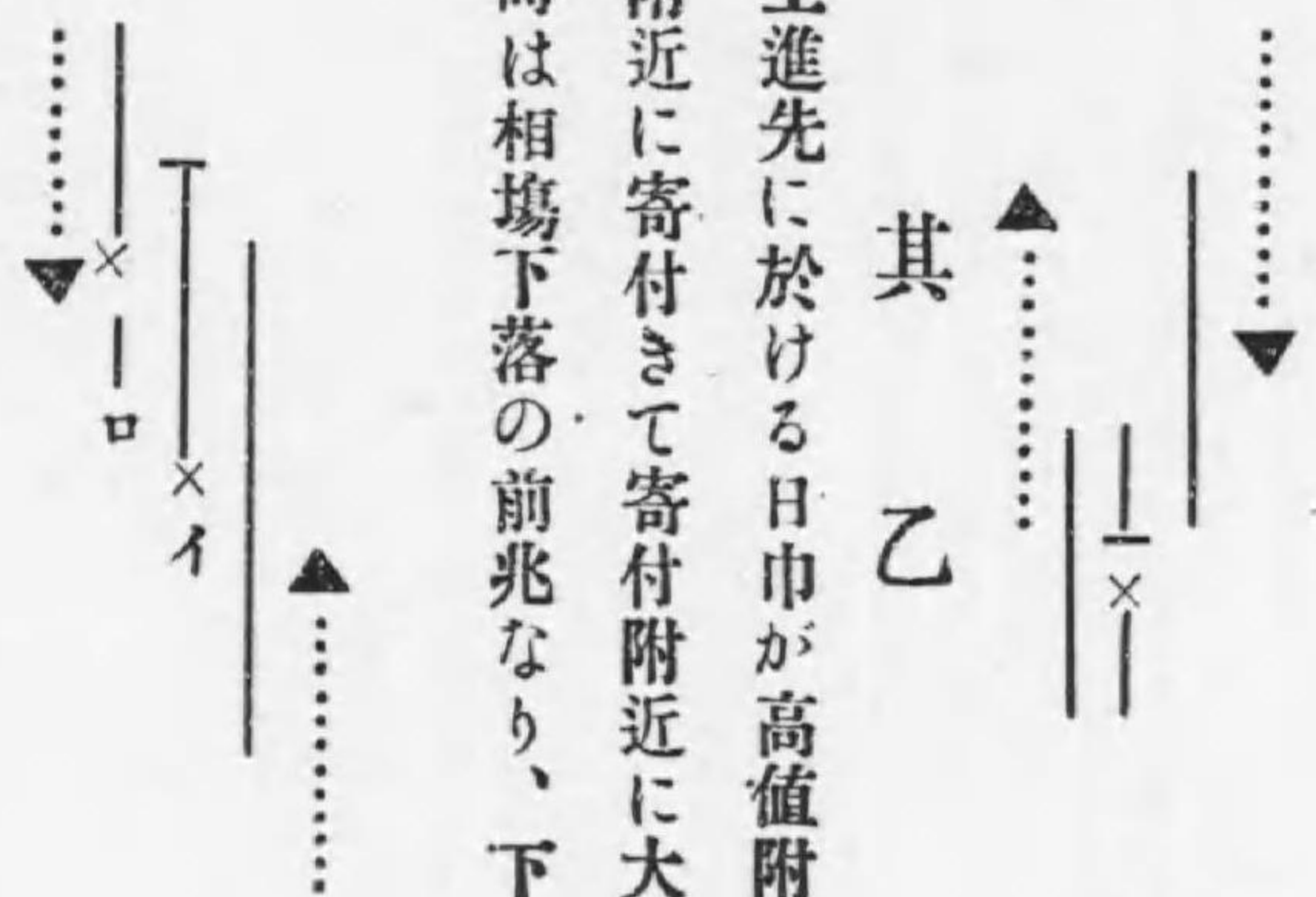
(33)

保合法 甲

相場上伸先に於て日巾が朝の寄付より上伸びして後大略其寄付にて下押し大引し、翌日も亦同様の日巾を再現せば下落暗示なり、下落先に於ける出現は此の反対上進の暗示となる。

上進先は此の反對

其 乙



相場上進先に於ける日巾が高値附近に寄付きて安値附近に大引し、翌日は安値附近に寄付きて寄付附近に大引し、且つ値巾出現位置共に前日と大差なき時は相場下落の前兆なり、下り先きに於ける出現は上進の前兆となる。

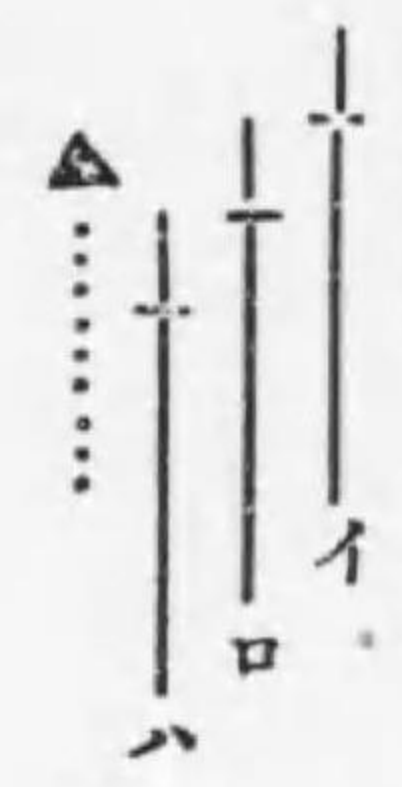
下り先は此の反對圖

注意、イ日巾とロ日巾を前後しにて現るゝ時も上進の時は賣下落の時は買となる。

其 丙

相場上り先に於て互に接近して寄付きし、三つの日巾が大體重つて上伸びたる場合は相場の頭となり、下げ先に於ける此現象は反對底となる。

下げ先の場合



上り先は凡て此の反對

條件、イロハの寄付が何れの形に變化する場合も同じ、但し寄付は上又は下にある事。

一二種保合法（小巾）

相場上げ先、又は下げ先に於て一日の小巾保合を現し、翌日其小巾保合範圍より何れか一方へ米三五丁株三五十錢方新値を切り、其翌日も同方向に同値巾だけの新値を切りし場合、新値の方向に従ひ賣買すべし。

(36)

連續保合急變法

連續保合範圍を米五丁株五十錢以上、上下何れかに抜きたる場合は其抜

きたる方向に従ふ、而して其標準は前日の日巾とす。

特種保合法 一

連續保合より突飛又は崩れたる先に、轉換法（一）を出現せば其突飛鼻は賣崩落先は買也。

其 一一

相場下り先に於て連續保合が三角形又は角形を現す時は賣、上り先に於ては二つ共買となる。

連續保合の形が尖形、圓形を現したる時は、上下の場合に拘らず其尖形圓形の方向に相場あるを常とす。

(37)



其 三

相場の下り先に一法則を出したる後、漸進歩調にて上戻し下落相場の中程に達せざる位置に於て、連続保合を形作る場合は賣なり。

其 四

上りつゝある相場の押目の處に不規則的連續保合を示したる時は絶體買

なり。

其 五

上伸相場が漸進歩調にて下押し來り、其中央點に達せざる處にて保合となりし場合は買となる。(其三)の反對なり。

特種急轉法一

本法は暴騰暴落時代に現るゝものとす。



條件一、イ日巾は米二十丁株二圓以上の値巾を有する事。

二、ロ日巾の朝の寄付はイ日巾の中央點附近にある事。
 暴騰時に於てロ日巾が、イ日巾の安値を米三丁株三十錢方下抜けば賣なり。

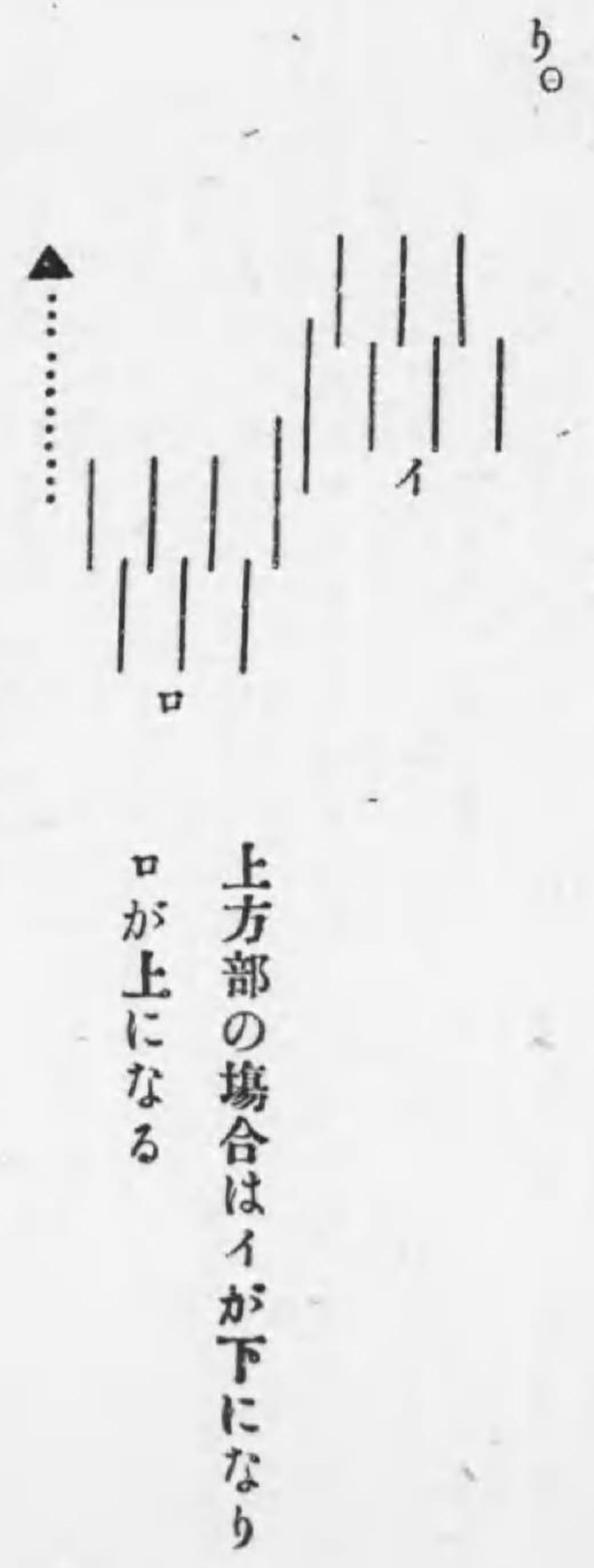
暴落時に於てロ日巾が、イ日巾の高値を同じ値巾だけ上抜けば買ひなり

其 二

上り先に於て前圖イ日巾が朝の寄付きを上を下押し、翌日ロ日巾は其安値以下に寄付きて尙寄付上り米七丁株七十錢下押せば其足に従つて賣りとなり、下相場は此反對買となる。前圖参照自描く事。

特種連續保合法

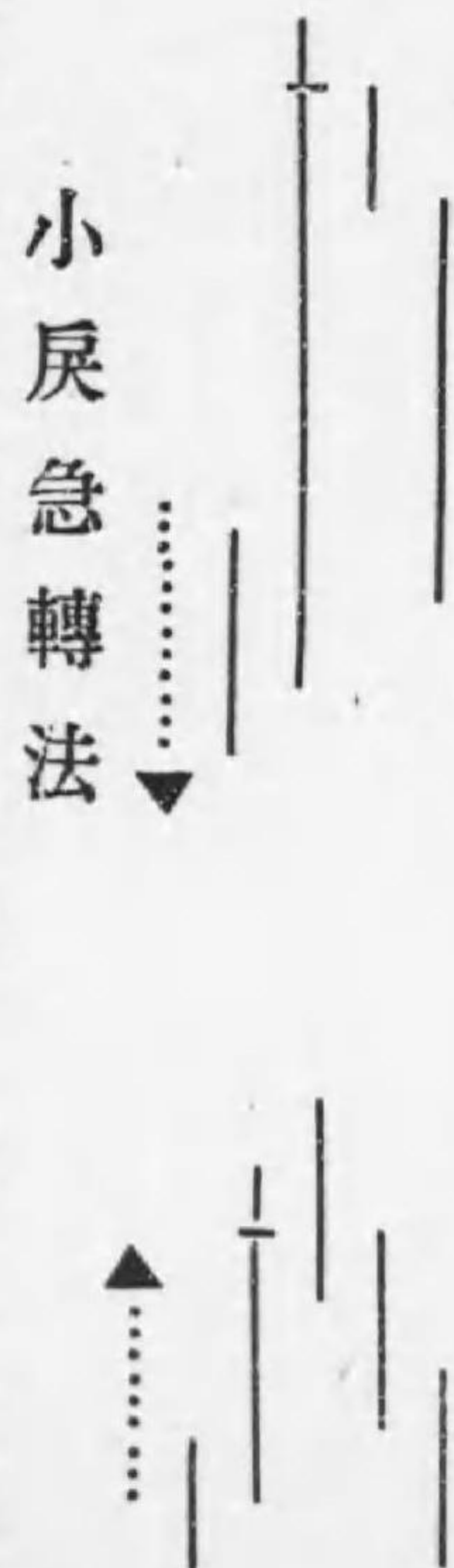
連續保合法が上方部に段層を作つて現るれば賣、下方部に重なれば買なり



小押急轉法

漸進歩調にて上騰しつゝあつた相場の上押し先きに轉換法(一)を現せば絶體賣なり。

漸進歩調にて相場の小押先に轉換法(一)を出現せば買なり。



小戻急轉法

急激に落下したる後、小戻し先に轉換法(一)を示せば相場更に安く、漸落に落下したる後小戻し先に轉換法(二)を示せば相場更に高し。

特種押戻先見法

相場上伸先に於て朝の寄付きを上にて下押す日巾を現し、翌日其日巾の安値より下放れて寄付きたる處を下にして上戻し、其高値が前日の高値を上抜かざる時は尙高く、此反對は安し。左圖の如し。

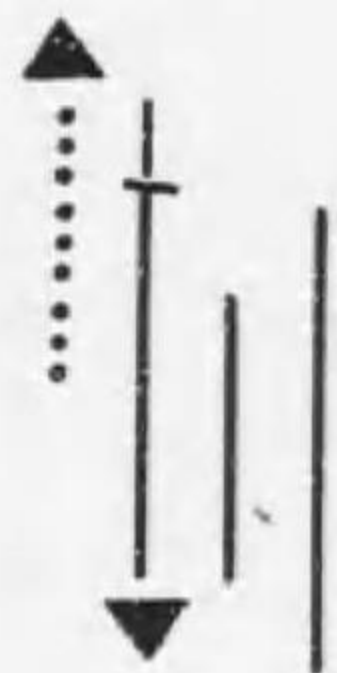


上伸氣は上圖の反對

右圖に於て押目日巾が二日續いて大略、同値巾、同位置に現るれば上伸先に於ては買の斷定となり、下り先に於ては賣の斷定となる。

其 一一

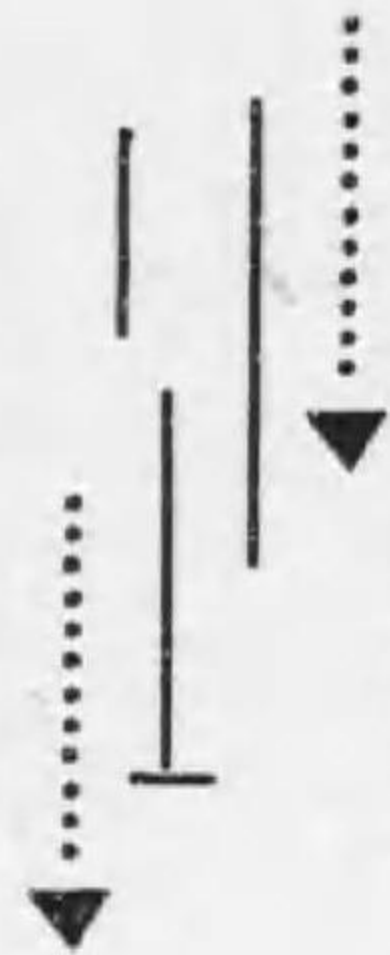
相場の上進先不伸法を現し、翌日其高値の位置に寄付いて下押せば買となり、又下り先に於ける反對の現象は賣となる。



下り先に於ける場合は上圖の反對

其 三

急調相場の上り先に押目巾を出し、翌日之れと同値巾のものを其中央點以下に現せば尙高く、下り先に戻し日巾を出し、翌日之れと同値巾のものを中央點以上に現せば尙安なり。



上り先は上圖と反對

其 四

急調的相場の上り先は、は又下り先に轉換法第四を現し、翌日之と同値巾のものを上げ時はハ日巾の中央點以下に、下げ時は其中央點以上にある場合、上り先は尙買となり下り先は尙賣となる。圖は轉換法第四を参照せよ

漸進特種押戻先見法

漸進時代に特種押戻先見法が現るゝ時は、上進相場は尙買の一點、下げ相場は尙賣の一點なり（故に特種押戻先見法は以外の相場にも適用して甚だよし）

- 法は死物活用する人の頭によつて生く。
- 小相場を見るに六可敷く大勢を見るに易し。
- 目で見ると見るな心で見よ。
- 相場足の取りは大きく見るも小さく見るも、高下すべき素因たる勢力に何の替りなし。
- 小變動より大勢、中勢と變化す油断すべからず。
- 氣配に迷ふべからず氣配を利用し進退すべし。

第五章 月始め先見法

月始めの人氣は一方に逼し易し、而して此氣勢が四五日前後に停止を作れば、多くは發會の方向に相場あるものとす。

連月暴落を續け、新甫發會が大下鞘に生れたる時は、如何なる軟材料あるも賣るべからず、大勢轉換期に近づけるものなり。

新甫が大上鞘に發會する時は買ふべからず、一時押目下落あるものあり又連月昇進したる後を受けて大上鞘に發會する時は、大井となること多し前月末より漸進的に上進して高納會をなし、其新甫發會が大なる上鞘に生れず、軟弱の如き足取を示すことあり、斯かる時は、尙昂進の暗示なれ

ば買に妙味あり。

連月に涉り下鞘に發會しては安く、下鞘に發會しては安納會をしたものが、以外なる上鞘に發會する時は大勢向上を暗示す。

上鞘に生れては高納會なし、上鞘に生れては高納會なし、同様状態連月に涉りて後、今迄になき大上鞘に發會したる時は極力賣るべし。

○
相場は乗り出しが大事。

第六章 大勢先見法の秘訣

連月相場が下落或は上進して來たものが、從來になき大なる日巾を作ら

ば最早や其方向に翌月相場はなく、従来の反対の歩調を辿るを常とす。

本月の高下直巾と前月の高下直巾を比較し、前月の高直を抜き得ず、安値は却つて何程でも抜く場合は翌日は必ず軟弱、其反対に安値は抜かぬ場合は翌月は高暗示とす。

或る直段より昂進したる相場が天井を突き、夫れより押目に入るも以前の底直を破らず、再び上進する場合は以前の高直は必ず上抜くものとす。斯くの如く始終此の歩調の下に高低する事を忘るべからず。

高直天井より或直巾を下落し、此の直巾に對して戻り上げを演じ、斷じて以前の天井を上へ廻らずして戻りの天井を造り再び軟調に陥らば、必ず以前の底直を下廻る規律なり。

第七章 天井先見法

相場で成功するには、此の天井と底とを見極めたならば、小資本から一擧にして千金を利し得るのである、而して此機會を巧みに覘ふ人は、最後の月桂冠を頂くものである。

天井には期米であるなれば、一年に一二回の天井と、數ヶ月に於ける二三回の天井とある、同じ天井であるが多少異にする、又株式の方でも大體そうであるが、株式には經濟界の循環に於ける、何年目かに一度は來る處の大天井と大底とある、兎に角天井を構成する相場の状態を理解すれば、左の事項を綜合するのである。

天井を構成する迄は數日相場は上進に上進を重ね、何處迄行くかと思はしめ、人氣は買はやり歩調健實を呈し、賣方は煎れ弱氣の恐怖甚しく、買方は勝に乗じて益々買募つて人氣は沸騰點に達し、内外總買の状況を呈し俄然急落するか、又は異例なる高値に引けたる時は、將に大井を打たんとし、陽極つて陰に轉換せんの一刹那にして、恰も燈火の將に滅せんとするや忽然其光を増すに似たり。

一概に論せられざるもマバラの場面總買に向ふ時か、又は近來になき大なる直巾を生じ、新高値に大引して、大上寄をする時は最早天井なり。

(50)

第八章 底値の先見法

比較的永く漸次下落を重ね、一般の人氣はこれから先何處迄下るかと思ひ悲觀を重ね、近來にない氣崩相場が出現し、新安値を現し買方總落城後俄然相場が昂進し、此の邊にて軟弱なる持合を示し、人氣は弱いけれども相場は再び其新安値を突かざる場合は、明に底入を濟したのである。

或は不振時期に於て取引極めて沈靜に、日々來高大に減少し相場の動き不活發にして、此の如き事が數ヶ月續く時は相場は多く轉換期となるのである。

(51)

天井三日底百日

天井を賣り底値を買はんと焦るは大損の基、峠を越した下り坂より賣り底直を濟した上り坂より買ふべし。

○ 相場も氣配も、我も高い時は賣るべし、必ず大利あり。

○ 底値と見込まば周圍にも氣配にも迷はず買ふべし。

第九章 様變り相場

様變り相場とは相場が形勢一變する場合を云ふのであつて、從來數日間下落の場合、上進の場合、又は通ひ相場、保合相場等の中、何れかを構成

して居つた時、或動機を作つて一方に躍動を開始するのである、而して直ちに一時逆に相場の足取を示すか、又は急に落付いた様に見せて大引値が昨日と餘り變らぬことがあつても、相場の進路は既に其方向に依つて定つた以上、再び活動を開始するのであるから、若しそれが押目であつたならば其押目は絶好の買場所であつて、此の場合は寧ろ飛付いて賣買をすべきである。

様變り相場は往々月變り、休日明けに多いのである、一例を上げれば、相場が上げ続け後一時停止状態となり、それを受けたる月始めが尙前の形勢を持続した時は、上旬中に更に其方向に従ふのである。

第十章 中止及解合後の秘訣

立念中止解合の爲め休會する時、休止最後の止め値を標準として更に發會するや、遠く離れて寄付きたる時は反對に賣買すべし、多くは最後の止め直近く迄相場あるものとす。

相場が下落一方又は上進一方に於て或有力者の一部に解合談の成立を見る事がある、斯かる時は市場の人氣は尙それに集中するも相場は既に轉換期に近づけるが故に反對仕掛の用意あるべし、例へば相場昂騰して解合談の成立が宣傳すれば、機を見て賣仕掛けるのである。

(54)

第十一章 跡覺え相場

相場の緩は恰も地球が自轉しつゝ太陽を公轉する如く、天井に達するにも、底を突くにも、決して一直線に行くものでない、其波瀾曲折たるや、盲滅法な賣買では、大いにチャプ付いてばかり居らねばならぬ。

跡覺の相場とは大勢が上進又は下落にある時、其方向に相場が走り、或程度の値に達した時利喰相場となつて曲折し、それを一緒に大巾の保合を演ずる場合を言ふのである。

例へば上進後買方の利喰下押の處は押目待として買はれ、再び上進して前の高値と顔合せする處は又賣物に依つて下運びとなり、斯の如く相場は

(55)

練られつゝ或範圍の値巾の往來を繰り返し、其曲折點が心理的による跡覺に相場となるのである。此の場合は賣方は殆ど恐怖と苦痛の側に立ち、買方は捷に乘じ益々資力を充實し、買方獨天下となつて相場が自由にされるのである。

第十一章 保合相場

相場に變動を與ふる原因が單純にして、然かも尋常なる時或は強弱の思惑熾にして大喰合となれる時は、保合相場となる。多くは次の如き場合に生ず。

値段が數年來の平均價格に等しき時。

(56)

値段が其時の内外の事情に比して丁度相當位置にある時。
強弱共に大材料あつて、互角の時。

大高下ありたる後にして、思惑賣買著しく減退した時。
相場下位にある時。

保合相場の何かの動機を得て、保合の範圍を脱する時は、其勢力の續けて一方に走るを普通とするものなれば、保合放れには油斷すべからず、保合は直巾の動きに伸び縮みある故保合中の高値安値を抜きたりとして、直に保合放れを斷じてはならぬ、大保合の放れる時は何等かの材料が出るのである。保合放れの時機は多く左の場合である。

上げ下げ値巾の逐次縮小した時。

(57)

先限の喰合増加し來つた時。

新しき有力材料の出た時。

保合相場は野線に於て色々述べたるも、今二三のものに就て少しく説か
ん。

天井持合

天井持合は相場が相應上進した後最後に目覺しき一段の昂騰を演じ急に
下落して其近邊にて持合を構成する時は既に天井を打ちたる暗示である相
場が漸進的に急上した後亂調的に高下を現すは既に天井打とす。

底値持合

底値持合には大底値の保合と、押目底の持合の二通りあつて大底直の保

合は相場が連日に涉り戻つては新値を付け戻つては新安値に落ち込みし後
近來になき健實なる反撥を起した後比較的長く持合ふのである。而して殆
んど沈靜状態となり、斯くて機運に向へば一大暴騰を呈する事があるから
決して此の場合には賣つてはならぬ。

中央停滯保合

此の保合は字の如く中央に於ける保合であつて、相場が大勢に向つて上
進中又は下落中途一服状態となり、動機を待つて再び以前の方向に相場あ
るを常とする。

保合分岐の状況

持合相場は上進又は下落後相場値に達した時必ず屈折するのである、而

して始めの足取よりもだん／＼縮小し、遂には全く居寝状態となつて市場寂漠となり、人心退屈するに及ぶ、之れ靜中動を含み愈分岐の一端を開く時である、之れを名づけて動機と言ふ。

第十三章 鞘に依る先見法

大體前途大相場における高見越しは大鞘を買ふのであるが、然し相場が漸次上運びつゝある時先限と中限或は當限と段々直鞘が開き終には意外な鞘を開く時は、人氣が鞘に具體的に現れたもので、近く轉換期を暗示する兆候である。

之れに反し安見越しの時は小鞘逆鞘をさへ賣るのであるが、然し漸次相

場が下落し先限と中限と或は當限との直鞘が從來開きたるものが、漸く段々縮小し來り薄鞘若しくは無鞘、又は逆鞘等になる時は其極點を以て轉換の兆候と見るのである、逆鞘に買無しと言ふ言葉は前途面白からぬ場合を云ふのであつて、人氣に従ふ時と逆行する場合とを考へねばならぬ。

第十四章 人氣

人氣とは即ち相場の原因力とも言ふべき群集心理の事である、之れを相場に應じて二ツに分ける事が出来る。一つは大相場に於ける突飛的な高潮なるもので、一ツは小相場に於ける偏向的な普通のものである。

突飛的なもの即ち群集心理が一方に一致する場合は四四の十八、五五の

二十と言つて算盤の桁を外して走るものである、こゝ言ふ大勢的人氣に逆つたら忽自滅せねばならぬ。

普通の場合は其れとは冷靜なる爲め或範圍以上を脱し得ないものである。相場は此の二つの逆行點を以て進退したならば必ず成功し得る、熟練なる相場師は夫れによつて或程度の成功を上げて居るのである。

相場は常に賣買の數に依つて定まるものである、故に必ずしも人氣通りには行かぬことがある、何故なれば一人でも數百人に對するだけの大資力を以てする、場合はそうである。

人の行く裏に道あり花の山。

人氣は花と思へ。

戻待ち人氣に戻なく、押目待ち人氣に押目なし。

第十五章 仕手の分解先見法

以上述べ來つた處は野線に附隨せる外的の事柄で更に相場の內的に研究せんとする處は仕手の分解及び先見である。

仕手が相場に對する作用は米でも株でも大體に於ては餘り變りはないが株式は現物を以て定期に利用する場合が多いから株式に就て述べる。

井上	渡方	一	二	一	〇	〇
橋本		四	〇	〇		
柳	受方	一	五	〇		
石井		一	三	〇		
越谷		二	〇	〇		
岩本		一	四	〇		
小川		一	一	〇		

東京株式取引所の例

大日本製糖株 合計一八〇〇株

角丸	一	四	〇	谷	一	二	〇	〇
ト	一	四	〇					
山	一	〇	〇					

徳	一	〇	〇
上	一	三	〇

こう言ふ風に發表される、賣方(渡方)と買方(受方)の株数を加算する
 と少し合はぬが、之れは百株以下を省略したる爲めであつて、前者を下長
 と言ひ繋ぎに對してマバラ受方の多い場合で、前途面白からぬ前兆と見る
 のである。後者を上長と言ひマバラ渡株多く、一人で受ける株取買の場合
 で有望の前兆と見るのである。

今或株の買締に成功せんとする場合は、其驅引として左の要件を必要と
 するのである。

一、安値で仕入れる事。

一、仕入れたものは成るべく高値を付ける事。
一、他人の煎れ又は買進んで来た時に賣抜る事。
故に此の趨向をも知らずして、徒に有力筋に提燈を點けて賣買するは餘程考へ物であつて、思はざる失敗をする場合がある、相場はどこ迄も自己一定の方針の下に、正々堂々と進退しなくてはならぬ。

第十六章 材 料

相場變動の直接原因が人氣とすれば、材料は間接原因である、而して此の三者が切つても切れぬ中で、絶えず各々活動して居るものである。

材料は社會百般の錯雜なるものであるから、先見上から之れを主觀的と

客觀的とに分類するを便宜とする、而して相場に根本的變動を與ふるものが主觀的であつて、客觀的は相場に大した價值のないものなるが故に、先見法としては主觀的を採り、客觀的に目をかさぬのである。

相場は此材料に對しては常に皮肉である、例へば好材料が出た場合にアベコベ下つたり、又悪材料が出たとして平氣である、そうかと思へば一材料に一立會か二立會中に忽大變動を起すこともある。要するに材料は間接的なるが故に、其影響の状態は人氣或は人爲的によつて一樣には行かぬのである、然し乍ら如何に人爲的が主觀的に反抗しても、それは一時的であつて必ず其材料に従ひ相場は結局、其方向に走るべきは理の當然なことである。今其見方を區別すれば

- 一、材料の相場に對する眞價を知る事。
 - 二、此材料に對する世人の見解程度を想像する事。
 - 三、材料の相場に影響したる實際の様態により刻下の強弱を考へる事。
而して材料の経過人氣及び相場の経過は豫想、風説、決定、早耳、現實
行過ぎ、反動と言ふ如き順序となるのであつて其高下の時機に就ては
- 一、事件發生以前に之れを豫期して動く場合。
 - 二、事件發生して、世に公ならざる内に動く場合、
 - 三、事件發生して、且つ世に公になりたる當時に動く場合。
 - 四、事件發生して、且つ世に公になりたる後に遅れて動く場合。
- 右の中相場は第一の事件を豫期して動く相場を最も普通とし、而して此

場合に於ては事件の大小に依り、多少見解を異にするも、相場は既に極値に達し、發表は却て利喰となり、それより反動機に入る事が多いのである

第二は多く早耳と稱する場合にして、主として特殊材料に多く、されば一事件を早耳したる時は相場は未だ其材料を含み居るや否やを見極め、且つ世人の之を氣付く時機を豫想したる上賣買をなし、其事件公表されたる時は注意すべきである。

第三は實際事件出現して、相場動く場合は多く突發的材料にして到底其豫知し得ざるを普通とする。而して其時件と繼續的の性質なれば事件進行を見越し高下するも、一時的性質のものには賣向ひ、又は買向ひするをよしとする。

第四の事件済みたる後に之れを言ひ立て、動く場合は、此の出現當時に於て、相場は他事件に意を奪はれ之れを重大視せざりし時か又は出現當時其性質を辨へなかつた時である。

之れより米相場と株式相場の騰落材料を各専門的に述べん。

第十七章 米相場の騰落材料

米相場の材料を賣買上から言へば強氣材料と弱氣材料とに分つものとす

一、天候の良悪

稻は水草と言ふ位であるから、水分の必要なことは勿論であつて入梅の季節に雨あれば植付に好都合なるも、空梅雨なれば米の不作を見越すこと

になる。之に反して入梅期に言ひ分なき場合は弱材料となる。

米作の最も忌むべき冷氣が數日間打續く時は相場は強味を帶ぶ。

入梅明けより結實期迄炎熱の酷烈な方が米がよく出来又潤雨が時々あれば之れも豊作樂觀となり弱材料となる。

二、天災(地震、海嘯、旱魃、害虫、暴風、洪水)

植付前に於ける洪水は稻の先が見えないで數日經ると苗は腐つて仕舞ふ然し植付後の洪水は水中に稻が潜つても腐ること遅し。

浸水の被害は概して川の沿岸に止まるのであるから總反別より見れば一部分に過ぎない、此の場合は浸水の時日の長短、區域、季節等を考察するのである。例へば土用前後の出水は稻草の發育を防げる恐れあり、又新收

獲前後の場合は結實や乾燥を不充分ならしめる憂がある。然し洪水の上げは買ふべからずと古人も戒めて居る通り全體からは大したものではない。

旱魃に附いても之亦全國の一局部に限られ水利に乏しくない地方は、稲作の發育十分である故、全國を通觀すれば却つて豊作になる事が多い。

二百十日若しくは二百二十日前後の暴風は最も恐れて居る、雨なれば花口を塞ぐも暴風は花を散らす爲め被害が甚しい事になる、被害は大概三日目位から見ゆるから其覺格で駆引する必要がある。而して被害の程度は風力の強弱、經過、區域の廣狹によれば俄に推斷し悪いも、氣象臺の報告中に強風とあるまでは、さまでの被害はない。

害虫も今日は豫防法捕獲法の研究が進歩し發生したとしても、全國から

打算すればホンの一部に止まり、其害はさまでに廣きに渡らぬものである

三、内外國米收獲の状態

外國産米が豊作であれば輸入を見越し弱材料となり、反對に凶作であれば輸出することになつて強材料となる。

内地産米の豊作は株式には好影響を與ふれども、期米は反對に下落し、凶作なれば騰貴するのが普通である。

四、市場の在庫米の數量如何

收獲期迄の在庫米が続くや否や、即ち品カスレの有無、及古米の早喰ひ等の關係によつて相場の高下に影響する。

五、通貨の伸縮

流通貨幣の膨脹或は縮少は米價の騰落に對し密接の關係がある、時によつては作物の豊凶を無視し相場を左右し、豊作の年に於て高くなる事珍しくない、其理由は、景氣がよくなつて金廻りが宜い場合は即ち通貨が多いから自然米の需要多く、供給の農家の懐ろ具合が豊となつて自然米を賣らぬ爲め需給の權衡がとれず騰貴する。

其反對に不景氣になると通貨縮小され、金廻り宜しくないので自然補食で濟す様になり、消費減少して下落の原因となる。

六、金融及租税の如何

金融關係は矢張株式と正反對に受ける。租税が高くなれば農家の負擔重くなるが故に米價は高くなる傾向となる。

七、政治上

外交問題、及戦争、政府の調節如何によつて影響する。

八、輸出入米の關係

輸出入米の關係は米相場の高低に密接の關係がある、これは言ふ迄もなく内地産米の收穫高に従つて米價を調節する爲めに、或は輸出を多くしたり、又は輸入を多くしたりするのである、其中で朝鮮米は毎年内地に這入つて來る高も多く、又定期受渡米の代用にもされる以上、此の移動も決して見通すことは出來ぬ。

九、仕手關係

また米相場は、商路上に於ける、買占めとか、投賣りなどの爲めに變動

を起すことがよくある、これは即ち大手筋が仲買人と提携して、自分の有利に歸する様に相場を動かす場合である、肩替りであるとか解け合も同様である。

受渡米が相場に影響する場合は、従来米相場は受渡しを豫想しない位のものである其處で受渡米の準備ない場合買方が斷然正米の渡方を迫ることになると計らずも昂騰する様な事に立ち至り、又其反對に、賣方が正米をウンと持つて居る様な場合、それを買方に渡さんと迫る事になれば勢ひ正米過多となつて、相場は低落する事になる譯である。

十、各地正米期米の景況

此の材料も變動を起す條件として可なり重要なもので、即ち各地方の取

引所で毎日立つ處の期米相場の高低又は、各地正米の多寡などが市場の人氣に及ぼすのである。

第十八章 材料相場の七ヶ條の心得

- 一、豊年の翌年には春底となり、凶年には春天井となる事多し。
- 二、凶作の年は買方針を立てよ、氣配も強く相場も高し。
- 三、收穫の多い年は必ず賣方針を採れ、下溢ることも結局は底落となる。
- 四、聯合買占又は賣崩しの雷同深追は禁物。
- 五、不時に於ける飛上げ三日以上は必ず反動あり、賣りに妙あり。
- 六、天候好順の時は賣れ、氣配に連れて下落するが常。

七、輸出米多き場合は買ふべし。

第十九章 材料より見たる十二ヶ月

一月 農家など蔵に積んで置いた米を賣つて、金に換へたがる時。

二月 舊曆の正月に當る月で、一月とは反對に、農家では餘り米を賣り出さぬ。

三四月 下つたものは彼岸底をよく現す、四月はデリ相場を現すことある
兩月共特別の材料なき場合は概して保合。

五月 植付時期に入れば、最早や天災期として天候の一晴一雨が相場に響き、前年度の産米も減少する時期なれば、強弱の腰入漸く旺ん

である。五月限迄は梅雨期に際し軟質米の變質を恐れ、それ迄に渡さんとするが故に、春から五月は伸悪い傾向を示すことあり。

六月 梅雨期で大切な月、従つて變動も大きい。

七月 梅雨明けて青田譽めど、買過の咎めに崩るゝことあり、土用に入つてからは天候の米作に關係する處深し。

八月 二百十日の前に當る八月は、歴史上天井相場の現るゝこと多し。前年度も不作にして土用天候面白くなく、凶作見越しをする様なれば、大低天井を現す。而して凶作相場一段落後は、假令端境に供給不足の聲宣傳さるゝも、又は鎌入不足の聲起つても、一時的反撥して再び先の天井を打抜く事は少なし。

九月 二十日一年中一番心配な月然し平穩で作柄良好なれば一年中で

一番底値の現れる時である。

十月 收穫の豫想が新聞に發表される時であつて騰落に影響する。

十一月 作物に被害ありて意外に減收する時は十一月、十二月頃天井を現

することあり、特別の材料なき時は、十一、十二は保合の起る時

十二月 普通なれば年末の事故、晦日近くなるに従つて大低下落。

第二十章 株式相場材料の分解先見

抑も大勢と言ふものは亂雜に變轉するものでない、恰も四季に春夏秋冬ある如く案外規律正しく循環してゐる。株式相場と此の大勢とは密接な關

係を有し其結果大勢に順じて株式の好不況が大小の波紋を描いてゐる。

時代の循環に基いて錯雜として社會に發生する大小の材料をば、觀者は之れを整然として考査すれば直ちに景氣を計り得るのである、春には春の花が咲き、夏より秋に至らんとして秋風が吹くと同様、材料の研究は即ち其處であつて、其見方も知らずして、斯界を歩むは盲者に杖なきと同然である。

株式の材料を分ちて一般材料と、株式其物を鑑定すべき特殊材料とある之れを更に色分すれば好材料と悪材料とになる先づ大勢より之等を分解的に説明する。

第二十一章 經濟界循環一覽表

1	發奮 不景氣に懲り不自由を忍び生計の困難より脱出せんとし大に努力す	2	勤勉 眞面目に働けば少々にても利益あるを以て各人共に業を勵む	3	節儉 汗を流し儲けたる金は容易に之を散せず人々固く節儉を守る	4	蓄積 塵積りて山をなし銀行資金豊富となり輸出超過し正貨流入す	5	豐滿 資金充實金利低落有價證券暴騰事業勃興物價騰貴す	6	驕慢 物價益々昂騰投機熱漸く盛ん奢侈心生ず	7	豪華 投機盛ん生産過多奢侈募り輸入超過正貨流出資金需要激增金利暴騰
	新芽 發生		技幹 長大		含蓄 之季		節之 季		百開 滿果		萬葉 散亂		節之 季
	休養 反省		反省 時代		好景 氣時		好景 氣時		好景 氣時		不景 氣時		不景 氣時

8	自暴 貨物停滯物價低落奢侈改め難く生計困難遂に信用を濫用す	9	變禍 事業衰退資金減少百事不如意不景氣の聲漸く高し	10	困窮 實力なきものは倒れ實力ある者も縮小主義を取り自然淘汰の期至る
	萬葉 散亂		技幹 凋落		節之 季
	不景 氣時		不景 氣時		不景 氣時

右表は三期を十年循環となし、休養時代より好景氣時代となり、次に不景氣時代となる法則であつて決して順番を狂はすことを許さるのである。

大正十一年は休養反省時代の(一)に相當し未來の年廻りは順次それより數へて觀測すべし。例へば大正十五年は好景氣時代の(五)に當る。

方針としては、第一期が保合時代で採算買となり、第一期と第二期の間が押目買時代となり、第二期が實株賣抜けとなり、第三期が戻賣り時代と

なる。

第二十二章 株式相場騰貴の原因

となる材料

特殊材料

- 一、一株當りの正味財産の優秀なるもの。
 - 二、株券の流通力よきもの。
 - 三、株券の擔保力よきもの。
 - 四、採算(利廻)のよきもの、
- 利廻りの見方は、配當金額を拂込金額で割つたものなれども、それを以て

採算の全部とは言へず。

採算の標準は將來に置いて買ふものなり。」

五、資本金に對する収益のよきもの。

配當の急激なる増加は相場天井近く、配當の減少失望は却つて底に近し何故なれば相場は常に先を豫想して動くものなり。」

六、浮動株の少なきもの。

七、會社に對する信用程度の低きものより高きもの。」

八、増資見越し。

九、紡績株には綿糸及原綿相場の昂騰する場合。」

一般材料〔經濟上樂觀的なもの〕

- 一、景氣の順調
- 二、商工業の振興
商工業盛運に向へば、従つて株價の大勢に根本的の好材料となる。
- 三、金利引下げ
金利引下げは積極的と消極的とありて、一般景氣の頂上に於て各種産業皆利益を得て、資金潤澤にして銀行預金増加し金融緩漫を呈する場合、又は消極的のものは不景氣の極度資本家の投資を手控へ、商工業は萎靡し更に資金の需要起らず遊金は銀行の庫に充滿する場合には金利引下げとなり株價は上進の機運を作り、株價に強固なる影響をなす。

四、金融の繁忙。

貸出しが自由なれば買方に有利にして、變態的に非されは財界に油を與へたる如く、株價は好影響を洩す。金融の繁閑は直ちに金利の高低になる。日々の金融はコールで判斷す。

五、外國貿易の順調。

出超の場合は正價流入し金融緩漫となり一般に之れを喜ぶ、然し繼續的の見込立たぬ場合は樂觀せざる事あり。

六、正貨の増加

通貨の膨張は金融の緩漫を來たし、商品價格を上騰を示し、商況の活況を呈す事になり株異は重要視す。

七、海外上

歐米の財界の良好は我經濟界に好結果となる。殊に英蘭銀行の金利に周到の注意を要す。

海運界の活況は景氣の先驅となる場合あり。

八、銀塊相場

支那印度を最大の貿易市場とする我國は銀塊の高低に依り銀本位國に對する貿易に消長あるは免れ難き數にして銀價の騰落は輸出を容易ならしむ爲め好材料。

九、農産物の豊作

豊作なれば我國の大部分を占むる農家に金廻りがよく、随つて株を買ふ傾

向となる。

十、政治的

内閣の財政經濟及外交に於ける積極的實施。

租稅賦課率輕き場合は民力の購買力の増進となる。

國際條約に於て我國の利權多き場合は人氣浮立つ。

藏相の樂觀演說。

公債の償還額多ければ金融に好影響を與ふ。

十一、手形交換高及貸出し高

多ければ信用の膨張で好材料。

貸出金額の増加は共に好材料。

第二十三章 同下落の原因となる材料

特殊材料は前述と凡て反対なれば省略す。

一 一般材料

一、恐慌

恐慌來に於いては株式の方が先驅をなす。故に株式は財界のバロメーターと言ふ。

二、商工界不振

三、金利引上げ

銀行家の財界前途の警戒の實證、且つ今後の貸出し制限となる。時と場合

(92)

によつて影響に差異あり。

四、金融の逼迫

株界を壓迫することになる。

五、貿易の逆勢

輸入超過は正價流出となり、一般之れを悲觀す、然し輸入品が原料品及器械類の多數な場合は憂ふべき現象に非ざるを以て市場は著しき因とならぬ事あり。

(93)

六、正價の減少

正價の減少は國家の財産の貧乏となり従つて財界の惡影響を來たし悲觀材料となる。

七、海外上

歐米の不況は我財界に至大の影響を及し、英蘭銀行の金利引上げは従つて悲觀材料。

八、銀塊相場の暴落

九、農産物の凶作

十、政治的

公債募集は金融界に影響す。

歳出が歳入より甚大なる場合は大藏證券の募集となり市場の資金を引上げる事となる。

新内閣の不評及、動搖、經濟界に積極的なる内閣の瓦解。

十一、國際上

戰爭の開始は恐怖心に襲はれたる場合、平和は悲觀と見做す場合。

十二、天災、地震、大火、傳染病

氣配上悲觀材料となる。

第二十四章 材料各種先見法

騰貴の前兆

- 一、證券價格の下落及一般商取引は沈滞す。
- 二、信用状態健全にして金利安し。
- 三、鐵道及工業収入少なく配當減少、會社整理續出す。

- 四、投資報酬率の多大。
 - 五、投機熱皆無にして證券取引額の減少。
 - 六、手形交換高の比較的減少。
 - 七、一般仕事の心理が弱氣となり、既に悪材料も相場に下落を演ずるに足りなくなつた時。
- 下落の前兆
- 一、商取引の繁盛に伴ふ證券價格の騰貴。
 - 二、信用擴張状態同時にコール及貸出日すの昂騰。
 - 三、鐵道及工業の純益増加、配當の激増。
 - 四、投資報酬率低下。

- 五、民衆の熱狂的に伴ふ證券取引の激増。
- 六、記録破りの手形交換高。
- 七、株式相場の大激動、黒人の操りによる最後の賣抜け。

恐慌の前兆

- 一、物價騰貴就中特殊商品、土地は最後。
- 二、舊企業の増資及企業の増加、總て生産方法の増加設備を爲して流通資本を固定せしむ。
- 三、金利の漸騰及資金の需要増加。
- 四、投機思惑の横溢。
- 五、割引貸出の増加、勞働供給の不足生ず。

第二十五章 修養 録

如何に先見に當を得ても修養を知らざれば相場に處して未成である、否相場は術よりも心の修めに成功の要素が多く含まれてゐる、「人は意志なり」と言へる通り、人間の萬事は即ち夫れに伴ふ修養の良否によつて結果が現著である、況んや失敗の最も多いとせらるゝ斯界に於てをやである。

兎角此の兩者は一致し難いものである、自分の心の型の修練は自分である、故に相場は己れに勝たざれば成功は不可能である、されば平素心を清淨にし非道の慾心を制し得るのが修養の眼目である、賣買のみに没頭して狂奔するは終生及ばぬことである。

相場界の成功者本間宗久翁氏曰く、賣買仕掛けの機は一ケ年に三回以上も必勝の日を發見せんとするは不可能と言はれ、尙成功の根本的要素を智仁勇に區別して「機を待つは仁也」「機を察するは智也」「機に乗するは勇也」と説かれてある、實に至言と言ふべきである。

修 養 十 項

- 一、忍耐して時機の熟するを待つべし、單に何程かの小利を得んが爲めに賣買する勿れ、相場道成功の要訣は只忍耐の二字あるのみ。
- 二、一時的に大成金と成らんことを欲する勿れ、早く火となれば早く灰となる、徐々に進み徐々に資金を積む事に心掛くるは投機の要訣である
- 三、大勢強し又は弱しなごゝ妄断し輕卒に賣買すべからず、吾が信する相

相場勢観察法に依り冷静に熟考して徐々に賣買を決すべし。

四、方針を誤りて賣買したと悟れば、速に斷乎たる處置を施すべし、小慾に曳かされて苦しき思ひに我慢するは終に思はざる大損となる。

五、損徳に拘らず以前の事を思ふべからず、何日も同じ徑路は繰返さるなり、相場は古く新に日々に新なるのである。

六、波瀾に迷はず一方方針を探るは可なり、然れども無暗矢鱈に一方のみ偏するは猪武者なり、時に大利を得る事あるも最後に破る。

七、不幸損失するも失敗を挽回せんと焦るべからず、取引所は永久に立つなり、冷静に熟考し以て徐々に挽回を謀るべし。

八、相場は遊技物でない、道樂的に相場はするものでない、一度賣買何れ

か取引をなさば慎重の態度を持して油斷なく前途の理勢に注視すべし

九、相場をなさんとすれば、先づ自分の身分を顧みて開始すべし、損の程度を定め、假令損をしても身上に苦痛を感じない程度ですべきなり。

十、凡て定期に儲けたからとて、それに誇ると言ふことは既に失敗したも同じ兆なり、調子に乗つて無暗に賣買するは偶然大利あるも結果は大損に終る。

實戰標語十句

一、小利は大損、小損は大利。

二、小相場に逆ひ大相場に従へ。

三、一心動かば手を引け。

四、利は八分目。

五、相場に値頃なし。

六、もうはまだなり、まだはもうなり。

七、陰極まれば陽に復し、陽極まれば陰に復る。

八、賣難き所が下がり買難き所が上がる。

九、高き時は必ず賣るべし、高きが爲め賣るに非ずして、安き時直ちに來るを以てなり。

十、勝利と失敗後は休戦が本則。

結 論

茲迄述べ來つた全部以て相場の智識となるべき總ての理解説明を實戰に活用して必ず大利ある事を信じて疑はぬ、要するに眞理と言ふものは研究して仕舞ふを數十句の言葉に替へ得るのである。私は之れを株と米とに分ち二三の式に替へて筆を置く事にする。幸之れが諸士の實地應用として御参考になれば著者何寄の本懐である。

(104)

株式相場先見必勝法式

應用は先づ活を得よ。

機會は大中機會とす。

株式は實株本位を忘るべからず

投資の場合

(材料十仕手十野線)十冷静な頭——大報酬

投資の場合

(大勢十特殊材料)十急かしの頭——報酬

期米相場先見必勝法式

大勢を忘るべからず

(人氣十野線)十冷静な頭——大報酬

(105)

附錄^{株米}公定引上下暗示必勝法

(106)

株米公定相場引上下暗示必勝法

第一圖(イ)より(ロ)と上げ、再び軟弱になりたる時は其節にて賣るべし。

第一圖



第二圖は(イ)と軟調を示し(ロ)と再び上げ以前の高値を抜かずしてハと軟弱になりたる時は賣る。

第二圖



(107)

第三圖は(イ)より(ロ)と下落再び(ハ)と上げたる時其節にて買ふ。

第三圖



第四圖は相場漸次昇進後(イ)より(ロ)と急に比較的直巾多く上げ現し(ハ)と押したる處は賣とす。

第四圖



第五圖は第四圖の反對にして買ふべし。

第五圖



條件、以上は法則なれども相場は變化百出なれば油斷すべからず。

例へば第五圖にて買ひたるものが再び第一圖に變化する事あり、然る時は速時賣りに變化すべし。

賣買何れによらず、急に暗示出現する時効力少なし尤も相場の時季によるものなり。

大引星が錯亂して出現する時は保合なり。

相場急調の場合前場寄付きが上下に拘す以外なる飛離れて寄付きたる時は停止を待ちて逆に賣買すべし。停止とは第四又は第五圖を

言ふ。

大引値が同事値を再三演ずる事あり、斯かる時は成可く休戦し、次の機会を待つべし。

期米活用法は一節毎の公定から公定と星を附し相連続して引くものとす。

株式に活用法する場合は公定相場大引引とす。

よく米株相場先見秘法了
當る

大正十一年四月廿日印刷
大正十一年五月一日發行

參圓九拾錢

著 者 博 運 山 人

發 行 者 京都市下鴨宮崎町百十二番地 市 村 庸 雄

印 刷 者 京都市油小路通松原上ル麓町 松 崎 辰 三 郎

印 刷 所 京都市油小路通松原上ル麓町 松 崎 印 刷 所

發 行 所 京都市下鴨宮崎町百十二番地 丸 木 屋 書 店

振替大阪五一七五二番

復 製
不 許

184
84

終

